

チャット形式の部屋探しサイトが全国に対応

エヌリンクス 6月にはスマホ版リリース



エヌリンクス
(東京都豊島区)
栗林憲介社長(31)

チャットで部屋探しができる不動産ポータルサイト「チャット不動産・イエアラ」を運営するエヌリンクス(東京都豊島区)は5月11日、掲載情報が全国対応になったことを発表した。

同サイトはこれまで、紹介できる物件が東京23区内のものに限られていた。サイト利用者の増加に伴い、問い合わせが全国に拡大したことから、今回の対応に至った。



▲イエアラのサイト画面

同サイトは昨年6月23日にオープン。チャット形式で、希望条件を伝えるだけで部屋探しができるサイトで、深夜0時まで問い合わせが可能。なお、6月にはスマホ版のリリースを予定している。

滞納者が有利になるよう動く典型的パターン



司法書士
太田垣章子の
チンタイ事件簿

「しょう。さらに電話をしても、訪ねても、手紙を出しても、何の反応もありません。しかしながら、滞納者は、ちゃんと訴訟の日を把握しているのです。裁判の当日、事務所から電話が入りました。わたしは既に裁判所の近くにいました。」

「滞納者から答弁書がアクセスで届きました」まさにこれがネット上で広がっていた極意です。つまり、あらかじめアクションを起こすと手を施されるので、動くのは裁判の当日の朝。しかも可能であれば、開廷時間のギリギリ前。答弁書をアクセスして、さらに体調不良を理由に「行く予定であったが、」

「勝手に部屋に入られ」

「具体的な答弁書に、家主側の落ち度をつらつら記載して、裁判官に悪い心象をあたえます。たとえば「督促の仕方、ヤクザまがいで怖かった」

家主の落ち度を記載して裁判官に悪い心象与える

「毎月第3週目掲載」

「た」とか。内容は「上っ上げでも構いません。滞納者の狙いは、裁判官に「自分だけが一方的に悪いわけじゃない」とアピールすることだからです。自分の口ではなかなか言えませんが、欠席で書面ならどうとでも書けます。」

結果、この滞納者は次回期日も欠席で、まったく連絡がとれないまま強制執行直前にこっそり出ていきました。

書面を受け取らないことで、1カ月得をして、答弁書をだすことでまた1カ月得をして、そしていなくなる。滞納者の黄金パターンを買いました。

この知恵をどこか別のところに使えばいいのに……！ 苛立ちを強く感じる今日この頃です。